

平成 29 年 8 月 1 日

文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択

平成 29 年 7 月 31 日（月）に文部科学省からニュースリリースされた発表のとおり（参照：http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/index.htm）、香川大学のプロジェクト「かがわイノベーション・希少糖による糖資源開発プロジェクト」が、補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択されました。

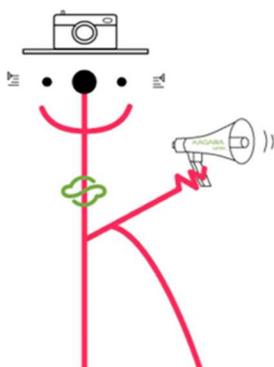
このプロジェクトは、香川大学が保有する希少糖に関する知識とノウハウを活用することで、天然の甘味料、医療用食品等としての希少糖の事業化を推進し、糖市場、医療関連市場等に新たな市場を創成することを目的としています。また、香川県や企業と連携することで、香川の希少糖ブランドを確立し、地域の一大産業へ成長させることを目指します。本学の国際希少糖研究教育機構を中心として、希少糖研究の研究シーズを事業化につなげる拠点として、5 年間にわたり進めていく取り組みです。

文部科学省・補助事業「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」

(http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiiki/program/1367366.htm)

香川大学・国際希少糖研究教育機構

(<http://www.kagawa-u.ac.jp/IIRSRE/>)



お問い合わせ先

国際希少糖研究教育機構 機構長補佐 秋光 和也

電話： 087-891-3131

Email: kazuya@ag.kagawa-u.ac.jp

上記不在の場合：研究協力グループ 矢野 亜紀子

電話： 087-832-1341（内線 1341）

FAX： 087-832-1319

Email: soumke@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

地域科学技術振興施策

平成29年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム支援対象地域の決定について

文部科学省の支援施策である平成29年度「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に応募があった地域の提案の中から、外部有識者の審査を踏まえ、10件の採択を決定しましたのでお知らせします。

1. 地域イノベーション・エコシステム形成プログラムについて

概要

地域の成長に貢献しようとする地域大学に事業プロデュースチームを創設し、地域の競争力の源泉(コア技術等)を核に、地域内外の人材や技術を取り込み、グローバル展開が可能な事業化計画を策定し、社会的インパクトが大きく地域の成長とともに国富の増大に資する事業化プロジェクトを推進します。日本型イノベーション・エコシステムの形成と地方創生を実現するものです。

2. 選定方法

(1) 公募結果

公募期間: 平成29年1月31日(火曜日)～4月14日(金曜日)

提案件数: 41件

[地域科学技術振興施策](#)

[地域における科学技術振興について](#)

[プレス発表](#)

[地域科学技術実証拠点整備事業](#)

[地域イノベーション・エコシステム形成プログラム](#)

[地域イノベーション戦略支援プログラム](#)

[地域イノベーションクラスタープログラム](#)

[知的クラスター創成事業](#)

[都市エリア産学官連携促進事業](#)

[国立研究開発法人科学技術振興機構\(JST\)事業](#)

[リンク集](#)

[サイトマップ](#)

(2) 審査・選定方法

「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム公募要領」及び「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム審査実施要領」に基づき、外部有識者により構成される「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム推進委員会」における審査を踏まえ、文部科学省において採択を行いました。

- ▶ [＜別添1＞平成29年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム支援対象地域一覧 \(PDF:79KB\)](#) 
- ▶ [＜別添2＞平成29年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム推進委員会委員一覧 \(PDF:40KB\)](#) 

お問合せ先

科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課

電話番号: 03-5253-4111 (内線3894)、03-6734-3893 (直通)

メールアドレス: local-ecosystem@mext.go.jp



PDF形式のファイルを御覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。

Adobe Readerをお持ちでない方は、まずダウンロードして、インストールしてください。

(科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課)

— 登録:平成29年07月 —

平成29年度地域イノベーション・エコシステム形成プログラム支援対象地域

	大学等	自治体	拠点計画のテーマ名	事業概要
1	国立大学法人 東京工業大学	川崎市	IT創薬技術と化学合成技術の融合による革新的な中分子創薬フローの事業化	東工大の情報・生命理工学等とスパコン技術を活かし、IT創薬技術、人工ペプチド・人工核酸合成技術等のコア技術の融合による革新的な中分子創薬事業フローを構築する。川崎市内企業等との産学官連携により、基礎・基盤研究と創薬事業を橋渡しするイノベーション・エコシステムを形成することで、中分子創薬の開発効率の大幅な向上を目指す。
2	国立大学法人 福井大学	福井県	ワンチップ光制御デバイスによる革新的オプト産業の創出	福井大学の有する光の制御技術をコアとして、光学エンジンの高効率合波特性と小型化の両立を実現し、ワンチップ化した超小型光学エンジン事業と革新的オプト産業の創出を図る。さらに、福井地域の有する多様なリソースの活用と、産学官金の連携により、超小型光学エンジンの用途展開、事業化を推進する。
3	国立大学法人 山梨大学	山梨県	水素社会に向けた「やまなし燃料電池バレー」の創成	電極触媒、ガス拡散層（GDL）一体型金属セパレータ、触媒層付き電解質膜の製造など、山梨大学と地域に蓄積された燃料電池技術の強みを更に発展させ、新たな燃料電池スタック及びシステムを創出し、電源及び燃料電池自動車等への展開を図る。地域内外の企業と連携し、今後到来する水素社会に向けた事業化を推進する。
4	国立大学法人 信州大学	長野県	革新的無機結晶材料技術の産業実装による信州型地域イノベーション・エコシステム	信州大学の持つ、結晶の形を自在に制御し求める機能を引き出す「フラックス法による無機結晶育成技術」を用いた、高機能・低コストな無機結晶材料を核とした事業化プロジェクトを展開する。フラックス結晶の用途に応じた開発スキームを確立し、アジアの成長市場への展開など、持続的にハイインパクトな商用化事例を創出するエコシステムを確立する。
5	国立大学法人 三重大学	三重県	地域創生を本気で具現化するための応用展開「深紫外LEDで創生される産業連鎖プロジェクト」	三重大学が確立した「深紫外LED」の基板作製などの技術により、飛躍的な製造コスト低減を実現可能とし、その産業振興をLEDメーカーおよび地域アSEMBリメーカーと連携して進める。これにより、地域に関連産業を育成するとともに、深紫外LEDを使った殺菌等の応用技術を農業・水産業へ普及させ、地域創生を推進する。

	大学等	自治体	拠点計画のテーマ名	事業概要
6	国立大学法人 神戸大学	神戸市	バイオ経済を加速する革 新技术：ゲノム編集・合 成技術の事業化	神戸大学が有する「切らないゲノム編集技術」「長鎖DNA合成技術」を生かし、革新的な創薬研究開発ツールの提供や長鎖DNA合成受託サービスの提供等、創薬ビジネス分野・バイオ産業分野への応用に取り組み、神戸を拠点とするバイオベンチャー等と連携して、日本の国際競争力向上に資するグローバルビジネス展開を目指す。
7	国立大学法人 山口大学	山口県	革新的コア医療技術に基 づく潜在的アンメット・ メディカル・ニーズ市場 の開拓および創造	研究開発が活発化し市場拡大が予測されるアンメットメディカルニーズ市場に対し、山口大学の有する革新的医療シーズを基に、山口地域に集積する医療関連の企業群と連携し、CAR-T細胞療法等の革新的な治療法の事業化を目指し、既存医薬品では満たされない医療ニーズの解消に向けた取組を推進する。
8	国立大学法人 香川大学	香川県	かがわイノベーション・ 希少糖による糖資源開発 プロジェクト	香川大学が保有する希少糖研究に関する知識とノウハウを活用することで、天然の甘味料、医療用食品等としての希少糖の事業化を推進し、糖市場、医療関連市場等に新たな市場を創成する。地域の自治体や企業と連携することで、香川の希少糖ブランドを確立し、地域の一産業へ成長させることを目指す。
9	国立大学法人 愛媛大学	愛媛県	『えひめ水産イノベー ション・エコシステムの 構築』～水産養殖王国愛 媛発、「スマ」をモデル とした新養殖産業創出と 養殖産業の構造改革～	愛媛地域で創出された小型マグロ類「スマ」の完全養殖技術について、地域の関連機関と連携し事業化・量産化にむけ、産業化に必要な持続生産を可能とする次世代育種、革新的な養殖システムの構築に取り組み、養殖産業としてのブレークスルーに繋げる。
10	国立大学法人 熊本大学	熊本県	有用植物×創薬システム インテグレーション拠点 推進事業	熊本大学に蓄積された「有用植物ライブラリー」を基に、地域企業と連携し、高品質有用植物の安定供給を実現する栽培システムを構築するとともに、ライブラリーの有用植物の抽出・分析・評価を一貫して行うことで、革新的医薬品等の創出に繋がる評価システムラインを構築し、創薬産業のイノベーションに繋げる。